

# 春の到来

中国では、「新年」といえば春節を示す。新しい年を迎えると同時に、春の到来をも喜ぶこの日は、盛大に、晴れやかに、中国を彩る祝日だ。暦や文化が異なるうとも、新年を喜び、家族のその一年の安泰と発展を願う心は、いずれも同じにちがいない。中国や世界各地の華人コミュニティがもっとも華やぐ一日を紹介する。

## 正月休みの後にまた正月

お正月のにぎわいがひと段落し、「正月ほけで……」と言い訳することができなくなるころ、華人たちのあいだでは、「そろそろ……」と新年の準備が本格的に始まる。春節（しゅんせつ）だ。春節とは陰暦（旧暦）の新年で、中国ではもちろんのこと、華人たちが暮らしている世界各地のコミュニティは、この時期になると赤や金を基調とした飾り物で華やかになる。

春節は陰暦の祝日であるため、年によっては陽暦（新暦）の二月になることも、二月になることもある。今年の春節は、陽暦の一月三日、しかも龍年だ。皇帝の象徴でもご存知の

とおり、龍は吉祥を呼ぶ神獣として華人にこよなく愛されている。きつと今ごろ、今年一年の安泰と発展を願って、チャイナタウンでは「昇り龍」が姿をあらわしているに違いない。

## 春節の願掛け

華人たちは春節になると、「拜年」といって親戚友人のところへ新年の挨拶に赴く。その際、子どもたちが楽しみにするのは「紅包」、つまりお年玉だ。通常、紅包という赤いお年玉袋には金箔で送り主の苗字が記されていたり、さらびやかな中国の年画が印刷されていたりする。芳しい香りのするものもある。

華人の家のなかも、新しい一年の幸福を願って玄関の両脇やドアなどに新しい「春聯」や年画が貼られる。最近、市販されている春聯は赤い紙に金箔で印字されたものが多いが、自家で書くこともある。幼いころ、我が家では父が毎年春聯を書いてくれた。なかでも、財宝を招き入れることを意味する「招财進寶」の四文字の辺やつくりを合体させ一文字に似せて書かれた字に、幼かったわたしは深く感動し自分も真似て書いた。書きながら新しい一年への期待が膨らんだのを今でも覚えている。また、春聯で必ず用意される「春」や「福」の字だが、文字を上下逆さにして貼られることが多い。それは、中国語（北京語）で逆さを意味する「倒」と

## 複数の暦の文化を楽しむ

華人の暮らしには、いつもふたつの暦に基づく文化が息づいている。ひとつは陽暦の暮らし。太陽暦（グレゴリオ暦）を基にしている日本でもおなじみの時間だ。もうひとつは、陰暦の暮らし。太陰太陽暦で、月の満ち欠けと二十四節気が組み合わさった暦だ。中国は元来、農業社会であり、人びとは農産物の生産過程のなかで、少しずつ季節と気候の変化の規律を把握し、それに合わせて暦を作った。そのため、陰暦は農暦ともよばれている。香港や東南アジアなど華人の多い地域は、西洋の植民地を経験してきたため、陽暦に基づいたイベントと陰暦に基づいた中国の歳時の両方を生活にとり入れている。たとえば、東南アジアのデパートの大きなモニュメントは、陽暦のクリスマスにサンタクロースが飾られるが、一月二六日になると、財神爺（財産の守り神）に衣替えをし春節モードになる。

春節になると、街では爆竹が鳴り



サンタクロースの体に財神爺の顔の巨大モニュメント（シンガポールにて）

響き、龍や獅子が練り歩く。こんな春節のにぎわいを、日本のチャイナタウンにも定着させようと街の店主などが集まり「春節祭」が考案された。横浜中華街では一九八六年から、そして翌一九八七年は神戸南京町でも、街をあげて春節を祝うようになった。日本に暮らす華人たちは、会社や学校など陽暦に従った生活をしている人が多いため、春節だからといって休むことはせず、家族集まって食事をするくらいだった。ましてや今のよう

に中国の伝統芸能を披露し、にぎやかに祝う雰囲気はなかった。しかし、街をあげて祝うようになってからは、メディアなどにも紹介され、今では、多くの観光客を呼び寄せるチャイナタウンの冬の風物詩となっている。その結果、華人はもちろん、日本人たちも春節を楽しむようになり、陰暦をとおして異文化理解が深まっている。あなたも、来年の春節には近くのチャイナタウンへ出かけ、なにか願掛けをしてみたいか？



春節に獅子舞をする子どもたち（横浜中華街にて）